

浩養小学校 × 十倉厚生園

浩養小学校と十倉厚生園（障害者支援施設）の交流は、十倉厚生園が開設された平成11年度から始まっています。児童の「人を思いやる心」を養ってもらいたいと、当時の浩養小学校の先生から申し出があり、交流がスタートしました。

交流当時は、さつま芋掘りを中心に年数回程度の交流をしていましたが、現在は、運動会やマラソン大会、バザーなど、年度ごとに交流する機会が増えていきました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、さつま芋体験しか行えていませんが、例年であれば、年10回程度の交流を行っています。



聞いて
みました！

浩養小学校

●十倉厚生園との交流で、子どもたちに変化は？

当初はどんな人たちと交流するのか多少の不安があったようですが、実際に活動してみると障害がある人・ない人といった違いは何もないと実感したそうです。

●交流で期待することは？

小学生という早い段階から交流することで、障害がある人・ない人という壁を作らず成長してほしいと思います。また、さまざまな差異を受け入れて、共に暮らしていく社会（インクルーシブ社会）を実現したいという意識を高めることを願っています。

●今後の交流について

コロナ禍の影響もあり、昨年度から行える交流が限られており、今回のさつまいも掘りも十倉厚生園の方と一緒に体験することはできませんでしたが、今後についても、感染対策を行いながら徐々に再開していきたいと考えています。

十倉厚生園

●浩養小学校との交流で、利用者に変化は？

地域の子どもたちと交流する機会が増え、交流を楽しみにしている利用者が増えました。

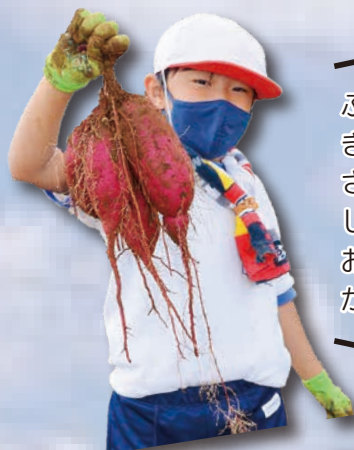
●交流で期待することは？

児童の皆さんが、障害を持つ人たちと交流することで、障害に対し理解するきっかけとなり、子どもたちだけでなく、地域の方にも理解していただけることを期待しています。

●今後の交流について

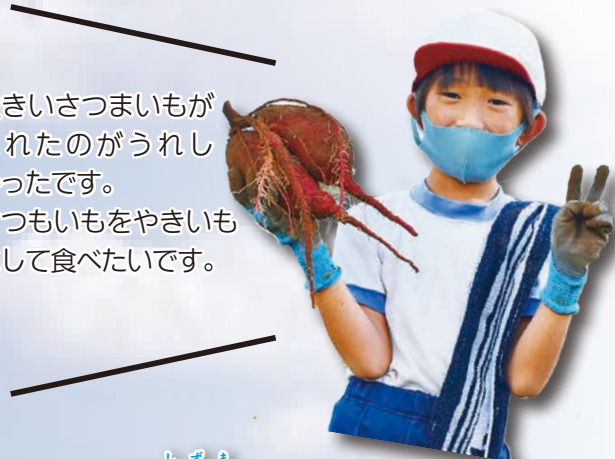
これまで「お互いに無理のない範囲で」を基本に交流を行ってきましたが、今後も変わらず継続し、地域福祉の一翼を担ってまいります。

交流のおかげか分かりませんが、浩養小学校の卒業生がこれまでに3名、職員として勤めてくれました。



森重利悠さん（1年生）

ふかくほらなくても、おおきなさつまいもやちいさなさつまいもがとれて、うれしかったです。
おみそしるにしてたべるのがたのしみです。



関根志寿真さん（2年生）

大きいさつまいもがとれたのがうれしかったです。
さつまいもをやきいもにして食べたいです。